



茨木市立福井小学校

平成 29 年 (2017 年) 7 月 7 日

# 福井だより

校長 吉田 明弘

## 平和を考える日 (6/28 ~ 7/4)

福井小学校では、毎年この時期を「平和を考える日」としています。学年に応じて核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さについて学習し、生命の尊さや人権の大切さ、そして『自分自身の生き方』について考える機会にしています。



6/28 の学校朝会で6年生が、6年間の平和学習のまとめとして(自分自身の生き方を見つめる出発点として)、修学旅行で学んだことを発表しました。

また、低学年は「いわたくんちのおばあちゃん(DVD)」、中学年は「ヒロシマに一番電車が走った(DVD)」、高学年は「はとよひろしまの空を(DVD)」を観て、

感想を交流しあいました。(保健室前に各クラス2点ずつ感想文を掲示しています。)



平和と自分の生き方  
六年

ヒロシマに行く前から戦争は絶対に起こしてはならないと思っていただけ、インタビューをしたり資料館の見学などをし、もつと戦争のおそろしさや平和の大切さを知りました。資料館の展示物や写真、詩などを見て日本で本当にこんなことが起こっていたんだと、とてもこわくなりました。

何も関係のない人々も死んでしまったり苦しめられたりしたヒロシマに行つて、改めて戦争は起こしてはならないと思いました。

私は平和や優しさ、思いやりなどを大切に生きていきたいです。私はよく些細なことで怒ったりすることがあるので、そんな事で怒らないようにしようと思えました。人の悪口も言わないで、大きな心をもって生きていきたいです。

平和の大切さ 自分の生き方  
六年

ヒロシマでインタビューをして、被爆者に会いました。その方は、自分のおそろしかった体験を話してくれました。「昔はいろいろなことがあつたけど、今は平和。ドームや石碑を見ていると、原爆で死んだ人や生き残って苦しんでいる人のことを思う」と言っていました。戦争の恐ろしさからこういうことを考えるのがすごいと思いました。他の学校の人たちも真剣に取り組んでいて、さすがと思いました。みんなが平和を願っているから真剣になれるんだと思います。

平和資料館へ行き、放射能や熱線のことについて学び、一つの原子爆弾でこんな恐ろしいものに出会うということがわかったです。地下に行く時に、原爆が落ちてから26231日も経っていると知りました。平和学習をしてたくさんのお話を学んでいくうちに、原爆ドーム・平和資料館は残しておかないと、平和の大切さや原爆の恐ろしさを忘れてしまう人が出てくると思いました。

ぼくは平和学習を通して、自分に正直で自分がされていやな事を絶対にしない人間になりたいです。

四年  
自分でも平和にできることは、友だちやクラスでなかよくすることだとわかった。せんそうは、ぜったいあってはいけないし、一つの原子ばくだんで何万人の人がころされたから、これからせんそうなく平和なくらしですつといたいと思った。

四年  
平和はいつもの事じゃないんだなあと思いました。一人ひとりが平和を大切にしなくちゃいけないと思いました。一つのけんしばくだんで何人も人がくるしまなきやいけないのは、すこくかないなあと思いました。

二年  
わたしは、せんそうをいんどしてはいけないとおもいました。ビデオでおばあちゃんがしゃしんをとりにたくないのは、もうにととかぞくをうしないたくないからだとおもいました。  
これからクラスでいっばいともだちをつくってあそびたいです。クラスゼンいんえがおにしたいです。

二年  
きょう「いわたくんのおばあちゃん」を見ました。一年生のときも「おあちゃん ごめんね」を見てほんとうにせんそうがおこったとわかったけど、もつとくわしくわかりました。もし、じぶんがせんそうにあつたらどうだろう。わたしはせんそうをしたくない。でも、ぜったいおこらないわけではない。どうしたらへいわになるだろう。わたしは、友だちとなかよくすることが、へいわのだい一ぼだとおもう。まずは、それにむかってがんばろう。

五年  
原ばく一つで、何万人も人が死んだりけがをしたのを見て、もう二度と戦争をおこしてはいけないと思った。  
ケンカ一つでどんどん大きいケンカになり、ついに戦争になるので、ケンカをしないで平和にしたいと思った。

五年  
一つのばくだんであんなにたくさんの人が亡くなるのは悲しいことだと思いました。あのはどのようにはうしゃのうで命をうしなつた人がいることにとてもびつくりしました。本当に日本でこんなことがおこっていると考えるととてもこわくなつた。  
これから、友だちとなかよくしていきたい。そして来年は亡くなつた人に心をこめてツルを折りりたいです。

三年  
これからせんそうにならないようにしたいと思つし、せんそうになつたなつた人たちがたべものをたべれないから、これからはごはんをのこさないようにします。友だちとなかよくします。

三年  
春川やよいさんの大切なおかあさんやタエちゃんが一つのばくだんのせいになくなつて、やよいさんがかわいそうだと思つた。つきちゃんもやよいさんといっしょの気もちだと思つ。大切な友だちをうしなつてかなしいと思つ。平和にするには、まず一人ひとりがケンをやめることだと思つ。小さなケンカがどんどん大きくなつて、さいごにせんそうになりつみのない人たちもころされる。ぼくは、そんなことはぜったいにゆるさない。だから、まず一人ひとりがケンをせぜずになかよくすれば平和になると思つ。

ここに掲載しているのは、1年生から5年生が、以下のビデオを見た後に書いた感想文です。(一部、加筆修正しています。)

低学年...「いわたくんちのおばあちゃん」原作 天野夏美  
中学年...「ヒロシマに一番電車が走った」NHK 広島放送局作成  
高学年...「はとよ ひろしまの空を」作 大川悦生、大川弘子、大川富美

一年  
おんなのこがないたところがかんしかつた。いやなことはいわないようにする。こまつたらはなしかける。

一年  
みんながしんだりして、かわいそうだった。おはなしがこわかつた。いま、せんそうがおきてほしくないです。おばあちゃんのかぞくがかわいそうです。みんながなかよくしてほしいです。